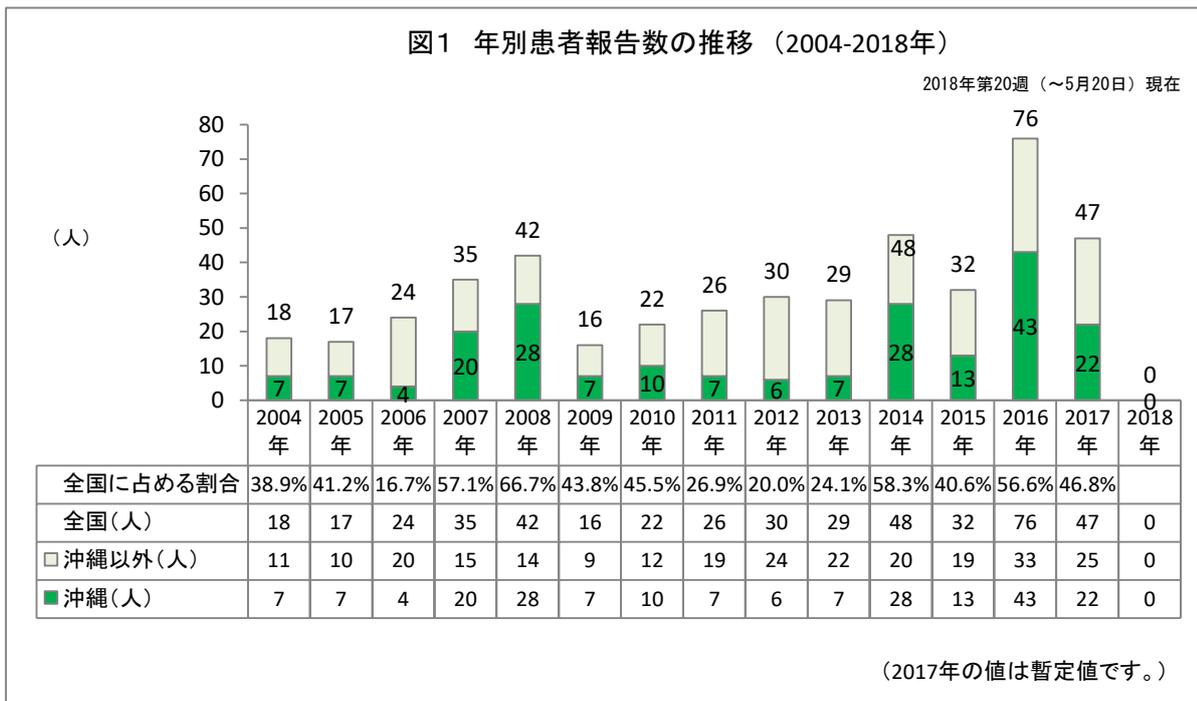


## レプトスピラ症の発生動向（沖縄県）

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラによって引き起こされる人獣共通感染症です。病原性レプトスピラは、ネズミやマングースなどげっ歯類を中心とした多くの哺乳動物の腎臓にあり、尿中へと排出されます。ヒトは保菌動物の尿に汚染された水や土壌などから、傷口や粘膜を通して感染します。感染の3～14日後に、発熱や頭痛、目の充血、筋肉痛などのカゼ症状や、黄疸や腎不全を伴う症状を呈することがあります。

### 1 年別報告数の推移（2004年～2018年）

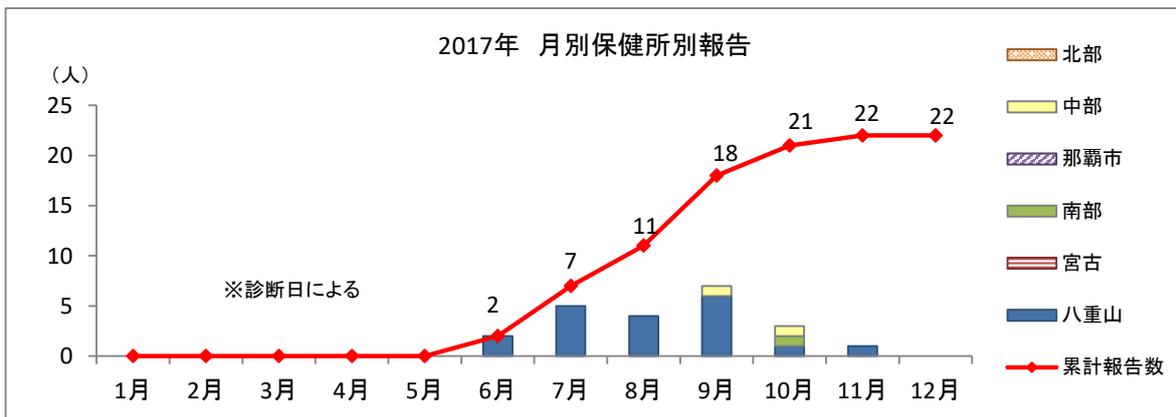
沖縄県のレプトスピラ症の2017年の報告数は22人と、2016年43人の約半数となりました。また、沖縄県の報告数は全国の約47%を占めています。2016年には川遊びの際に集団発生した事例も報告されています。



レプトスピラ症は2003年11月施行の感染症法一部改正により、4類感染症に指定されました。

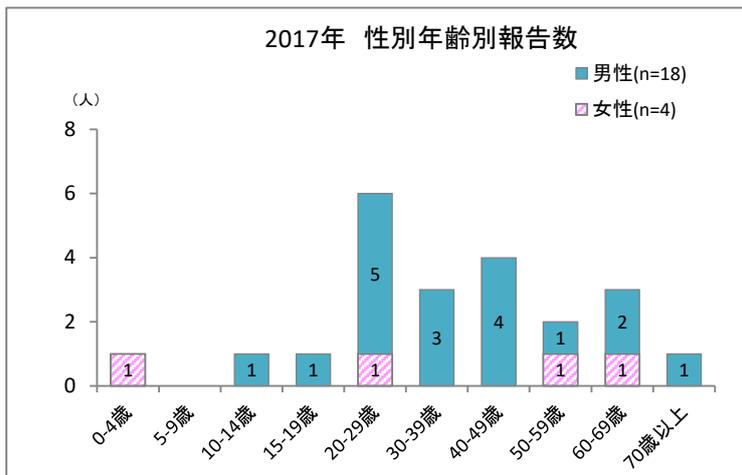
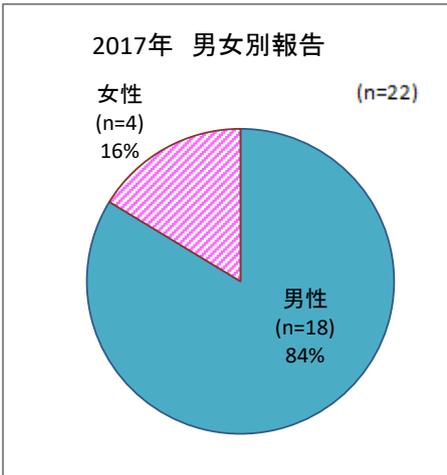
### 2 月別届出受理保健所別報告数（2017年）

- ・2018年は、5月下旬(第20週)時点で報告はありませんが、例年、夏から秋にかけて多くなります。
- ・2017年は、6月に初めての報告以降、11月にかけて毎月報告がありました。



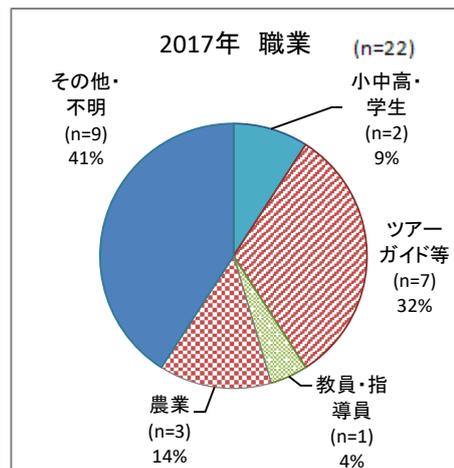
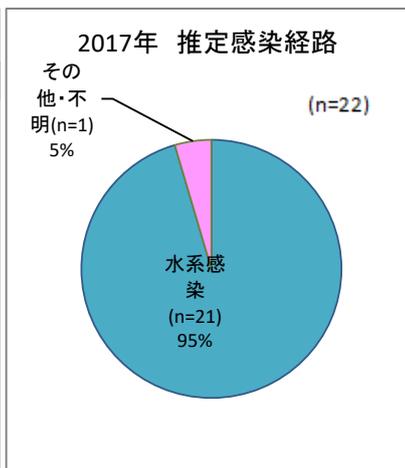
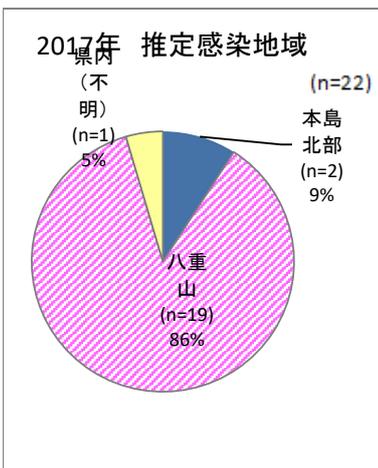
### 3 性別年齢別（2017年）

男性が8割以上を占めます。  
年齢別では、20歳代(6人)が最も多く、以下、40歳代(4人)、30歳代及び60歳代(共に3人)と続いています。

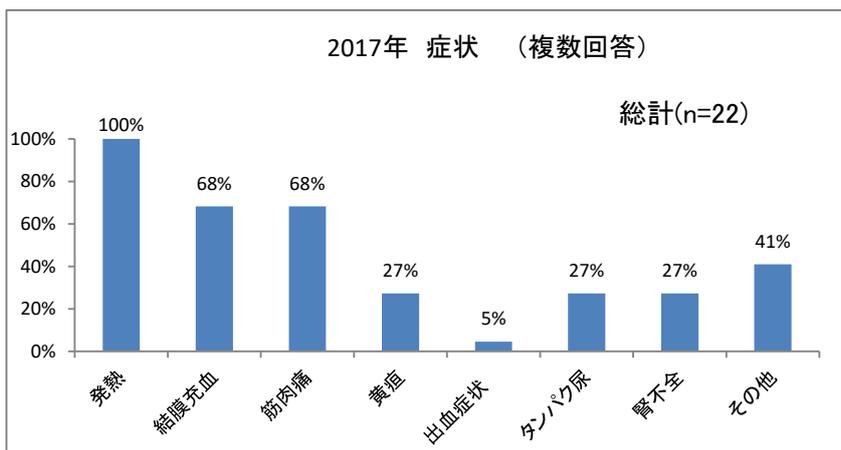


### 4 推定感染経路・感染原因（2017年）

推定感染地域は、八重山が19人、本島北部が2人となっています。本島北部は2016年(28人)に比べ激減しました。  
推定感染経路は、滝を含む河川でのレジャー活動を通じた水系感染が疑われる例が多数を占めています。



### 5 症状（2017年）



発熱は全症例にみられ、以下、結膜充血(68%)、筋肉痛(68%)と続いています。「その他」では、嘔吐、頭痛などが見られます。

## 6 対策について

傷がある状態で川に入らない、川に入る際は怪我をしないような服装や履き物とする、川に入った後、発熱や目の充血、筋肉痛等が出たら医療機関を受診し、受診の際、「川に入った」と伝えてください。

## 7 参考資料

※レプトスピラ症は四類感染症です。

診断した医師は直ちに最寄りの保健所へ届け出てください(全数報告です)。

国立感染症研究所 レプトスピラ症とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ra/leptospirosis.html>